

ブドウ「クイーンニーナ」無核果栽培における着粒安定処理の効果

河野 章・窪田理美  
(園芸技術科)

---

【要 約】ブドウ「クイーンニーナ」は1回目ジベレリン処理時にフルメット5 ppm を添加することにより着粒安定効果が得られる。また、処理による収穫期の遅延、果実品質低下などの影響はみられない。

---

【目 的】

ブドウ「クイーンニーナ」は2009年に品種登録された4倍体赤系品種であり、都内においても直売用の有望品種として期待されている。ここでは従来の大粒品種において着粒安定技術として用いられる処理を行い、本品種における効果について検証するとともに、収穫果、収穫時期などに与える影響を明らかにした。

【方 法】

灰色低地土圃場において2004年1年生苗を定植したものを供試樹に用いた。露地栽培で整枝剪定は一文字整枝短梢剪定とした。副梢の管理は1枚摘心、その他の管理は慣行栽培とした。開花直前に花穂先端4 cm に整形。植調剤処理は1回目満開時、2回目満開約14日後にいずれもジベレリン(以下:GA)25ppmを浸漬処理した(GA区)。着粒安定のための処理は、1回目処理を満開3日後に行う区(3日後区)および1回目処理時にフルメット(以下:FL)5 ppmを添加した区(FL区)とした。満開20日後に着粒数、収穫時に各処理区10果房について果実品質調査を行った。

【成果の概要】

1. 着粒安定効果:FL区で着粒数がGA区と比較して約2割増と効果がみられたが、3日後区ではGA区とほとんど差がみられなかった(表1)。
2. 収穫時期:各処理区とも収穫期はほぼ同じで盛期が9月上旬となり、処理による収穫期の遅れ等はみられなかった(表2)。
3. 果実品質:FL区において一粒重がやや大きくなったが、縦横比については各処理区とも同様に、果形への影響はみられなかった。糖度、酸度でも処理による影響はみられず、着色についても各処理区良好であった。含核数では、満開3日後にジベレリン処理をした3日後区においても0.22個/10個とほぼ無核となった(表3)。
4. まとめ:ブドウ「クイーンニーナ」は1回目GA処理時にFL5 ppmを添加することにより、着粒安定効果がある。収穫期や果実品質に与える影響は無く、着色の良い高品質の種なしブドウ生産が可能である。
5. 留意点:着粒安定処理をしても、十分な着粒数を確保できない場合がある。肥培管理などによる適正な樹勢の維持管理が重要である。

表1 満開 20 日後の各処理区の着粒数等の比較

処理区	着粒数	ショットベリー
	(粒/房)	(粒/房)
GA 区	40.5a	10.1a
3 日後区	41.3a	6.3a
FL 区	49.0b	8.4a

異なる英小文字間には Tukey の方法により 5%水準で有意差あり

表2 処理区別収穫日

処理区	収 穫		
	始め	盛期	終り
	(月/日)	(月/日)	(月/日)
GA 区	9/2	9/9	9/16
3 日後区	9/2	9/8	9/13
FL 区	9/2	9/11	9/16

表3 処理区別果実品質

処理区	房重	一粒重	縦径	横径	縦横比	糖度	酸度	含核数	着色
	(g)	(g)	(cm)	(cm)		(Brix%)	(g/100ml)	(個/10 個)	(c. c.)
GA 区	440.5	17.3a	3.4	3.0	1.1	21.6a	0.30a	0.22a	2.9
3 日後区	451.3	17.1a	3.3	3.0	1.1	22.1a	0.23a	0.22a	3.2
FL 区	478.6	18.0a	3.3	3.1	1.1	21.6a	0.30a	0.00a	3.5

異なる英小文字間には Tukey の方法により 5%水準で有意差あり